て、一棹あやまる時は、船を汐におし廻され、危きに至る事にて、日本第一の瀬戸なり、南より北方に渡る海上ながら、南風にて渡りがたし、其故は汐行早き所にて、船を東へおし流し、松前の津へ入がたし、數里の海上皆々石磯にて、船よすべき所なし、箱館の浦へ志すのみ也、〇下略

〔北海道志七海〕渡島國

津輕海峽　津輕郡白神岬ト、陸奥國龍飛岬ト相對シ、相距ル海里十二里四分、峽中三ノ潮路アリ、〇下略

〔北海道志七海〕北見國

宗谷海峽　宗谷郡ニ在リ、北緯四十五度四十二分五十秒、東經百四十二度一分五十二秒、露西亞領哥爾薩港ト對峙ス、海里二十五里二分五釐、宗谷ヨリ北一里半許、佐内ノ地ニ津口アリ、樺太白主ヘ達ス、西洋人此ヲラプロフス海峽ト云、露人ハアニソ海峽ト云、峽中二ノ潮路アリ、第一ハ幅五里許、第二ハ幅一里許、波濤壯猛、三馬屋峽ニ讓ラズト、此間潮水東ニ流ル故ニ、舟舶潮勢ニ隨テ行キ、左ニ還テ樺太洋ニ入ル、一說宗谷ノ七潮トテ、潮路七所アリト、昔ハ此ノ渡海二百十日ヲ限ト爲ス、

〔枕草子一〕海は

水うみ　よさのうみ　かはぐちのうみ　いせのうみ

〔八雲御抄五名所〕海〇中略

なにはの攝万、なしてるみやなるといふなり、ゐなの、同万、志ながどり、ちぬの濱松万、むこの同する、〇中略万、いさりいせの伊勢万、鶴きょ、みかたの若万、狹いなみの播万、ぬやちへにかくまと志まれくろうしの紀の万、大宮あさり、けいの越前万、かりなこ万、きさ、ごも、あごの長万、あさけのしほ、するがの駿万、はまつぐら、のとの能万、すゝの同万、なかはまのうら、くひの越中万、〇中略のうら、同万、七、海中に志かそ島いそのありその同古、はまのまさご、こしの海、おふの出雲万、かいつら、攝津國にも丹波にもあり、凡北陸海をいふともいへり、

名海